

## ②多文化共生について

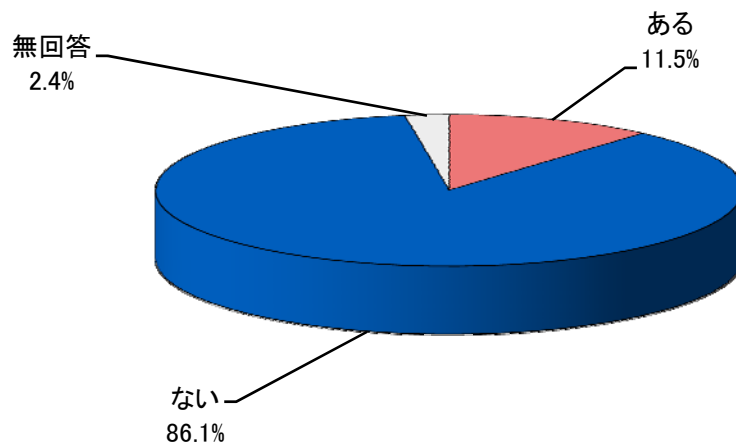
名古屋市では、平成25年3月末現在、外国籍をもつ市民は、人口の約2.8%、63,700人を超えています。国籍も多様化し、国際結婚により生まれた人や海外からの帰国者など、日本国籍であっても外国文化を背景に持つ人々も見受けられ、文化の違いにより様々な課題が生じています。

こうした状況について、市民の皆さまのご意見をおたずねし、外国人市民と日本人市民がともに暮らしやすいまちづくりをすすめるうえでの参考とさせていただくものです。

※各図表の「N」は、回答者総数を表しています。

問7 あなたは、外国人と地域や職場・学校などで、トラブルになったり、とまどったりした経験がありますか。(外国人市民の方は、日本人との経験についてお答えください。)  
(〇は1つだけ)

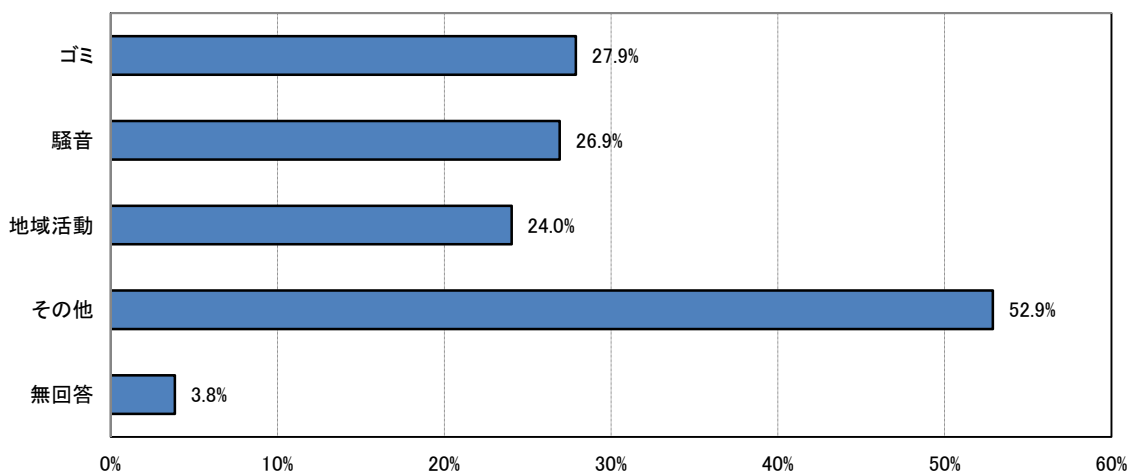
N=908



《問7で1と答えた方（トラブルがあったり、とまどったりした経験のある方）におたずねします。》

問8 トラブルの原因は何でしたか。（〇はいくつでも）

N = 104

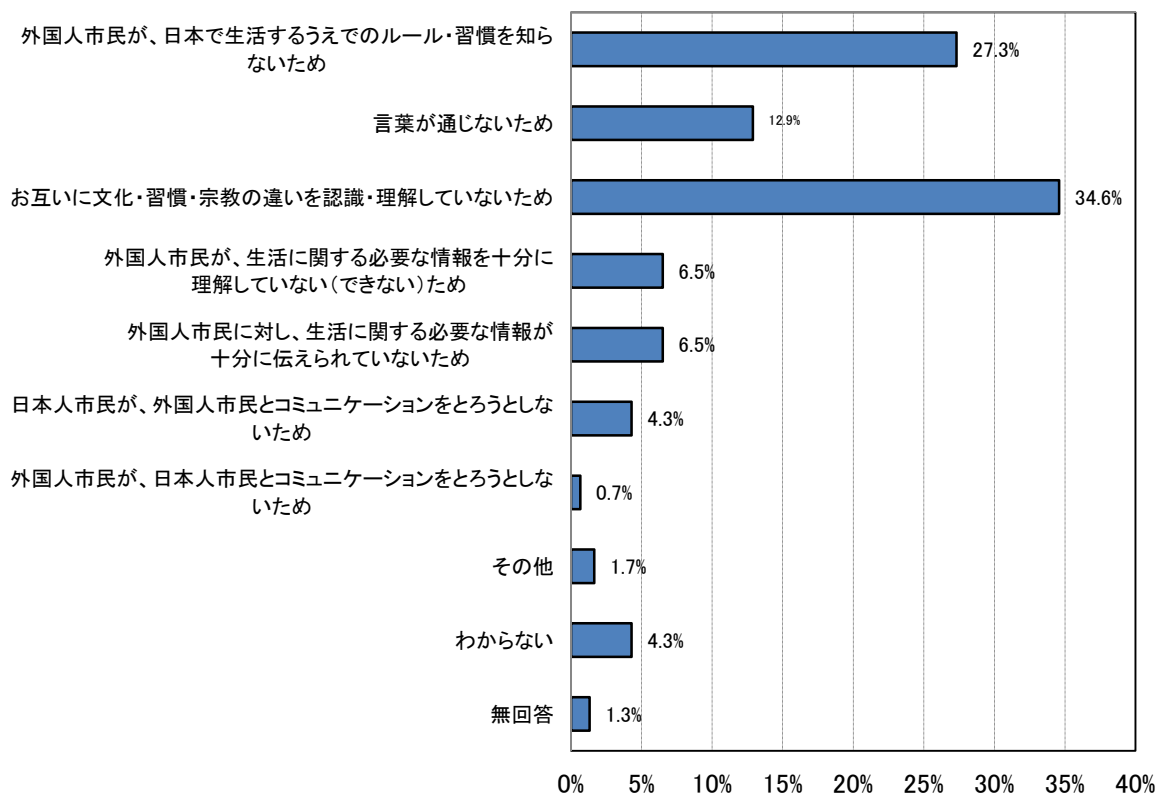


《すべての方におたずねします。》

問9 外国人市民と日本人市民との間にさまざまな問題が発生するなど、ともに暮らしにくい状況がある場合、あなたはどのようなことに原因があると思いますか。

（〇は1つだけ）

N = 908

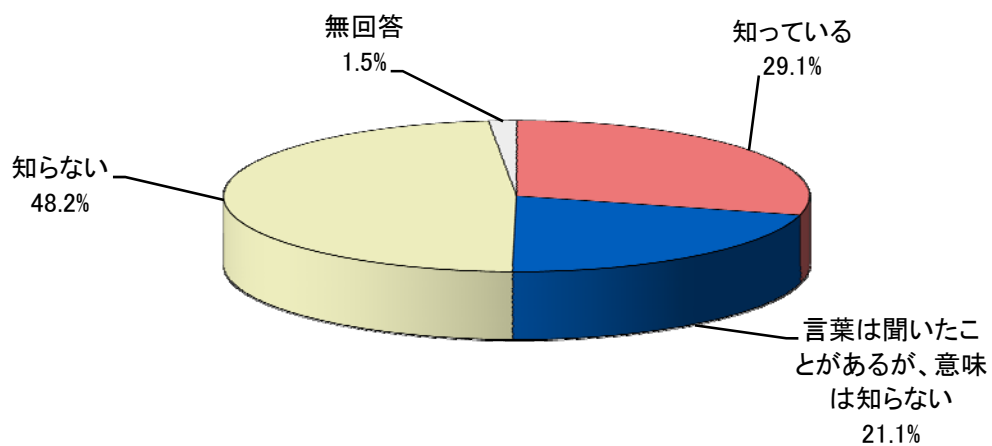


「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員としてともに生きていくこと」を「多文化共生」といいます。

名古屋市では、平成23年度に「名古屋市多文化共生推進プラン」を策定し、外国人市民と日本人市民がともに暮らしやすい多文化共生のまちづくりをすすめており、その実現のためには、市民の皆さまとともに取り組む事が重要であると考えています。

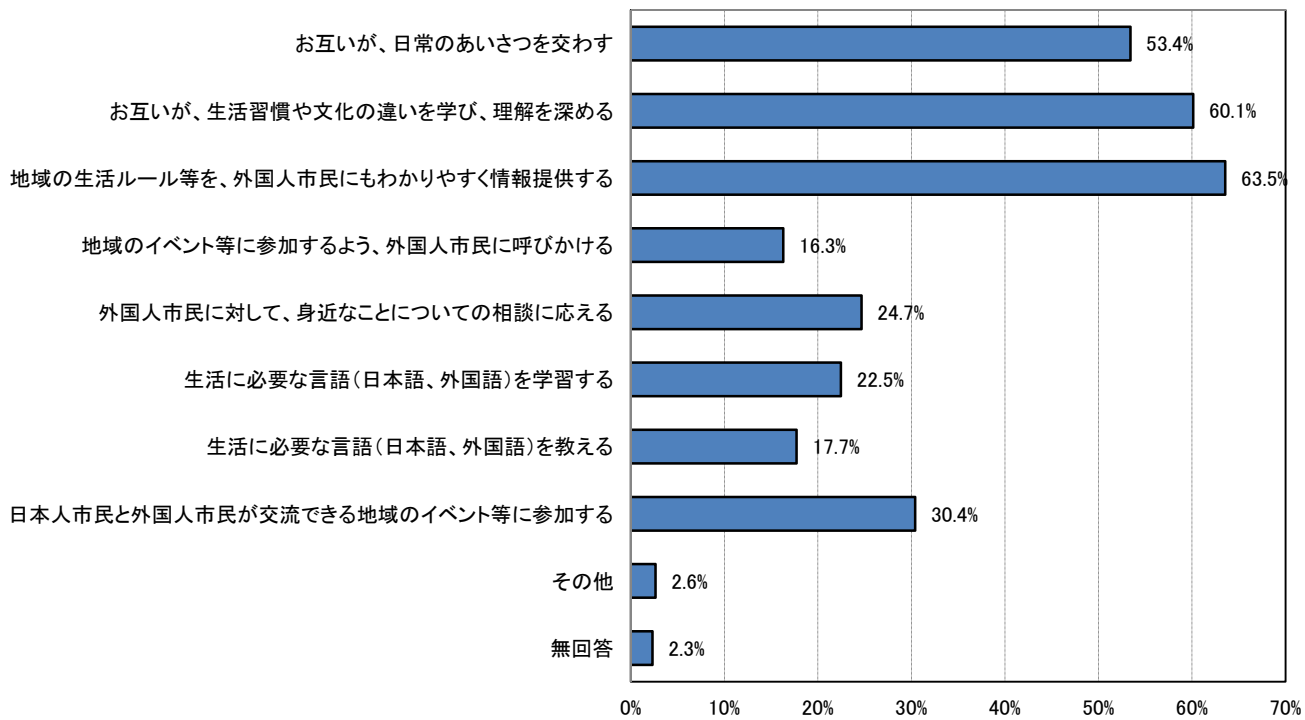
問10 あなたは、「多文化共生」という言葉を知っていましたか。(〇は1つだけ)

N=908



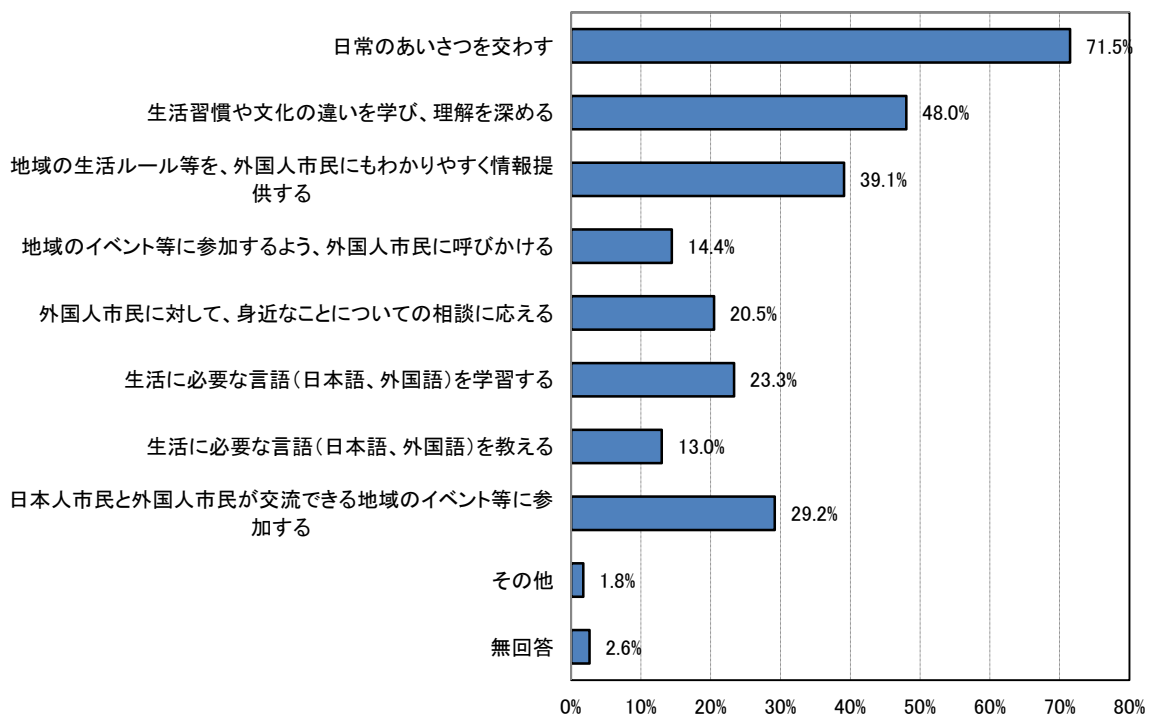
問11 あなたは、多文化共生のまちづくりを実現するために、市民の取り組みとしてどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

N=908



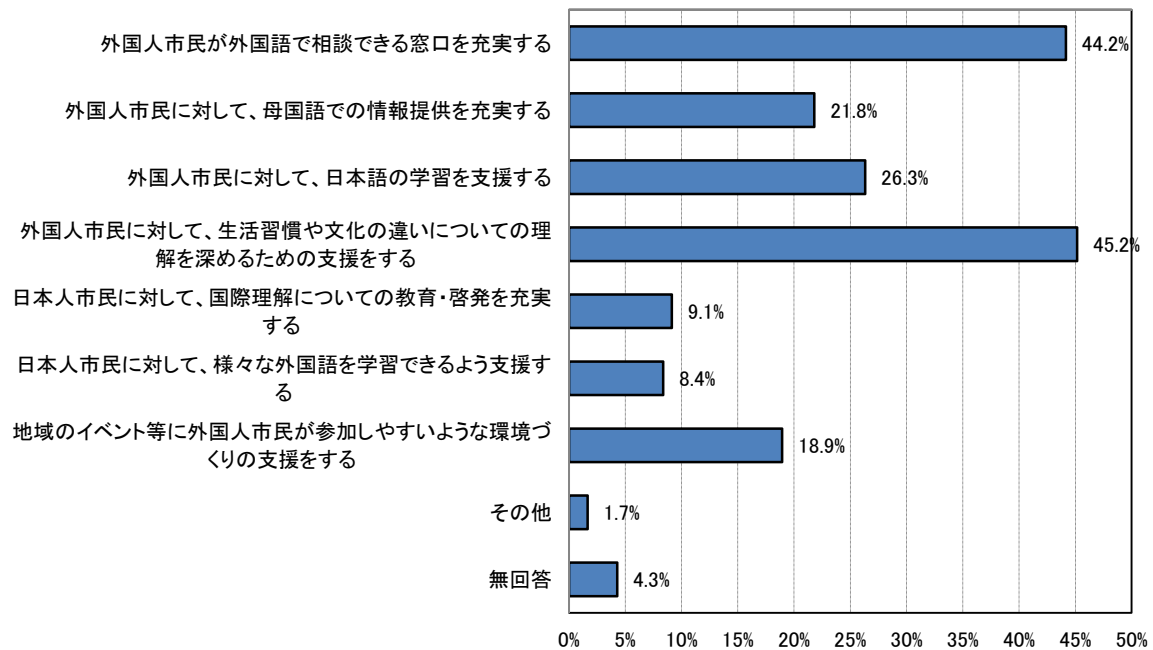
問12 多文化共生のまちづくりを実現するために、実際にあなたが行なってもよいと思われることはどれですか。（〇はいくつでも）

N=908



問13 多文化共生のまちづくりを実現するために、名古屋市などの行政がどのような取り組みに力を入れるべきだと思いますか。（〇は2つまで）

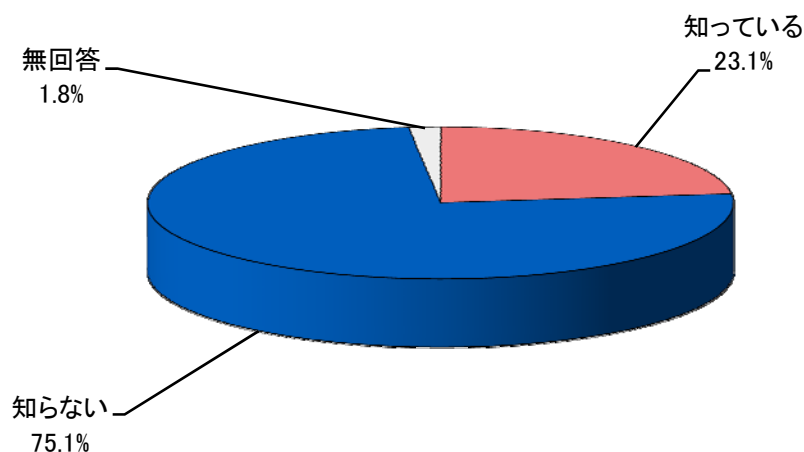
N=908



名古屋国際センターでは、外国人市民への情報提供や相談事業を行うとともに、世界が抱える問題について外国人講師と一緒に学ぶ参加型のセミナー「国際カレッジ」や、地域の外国人市民と日本人市民が交流を行うイベントを開催しています。

問14 あなたは、名古屋国際センターで国際交流や多文化共生に関するイベントなどが行なわれていることを知っていますか。（〇は1つだけ）

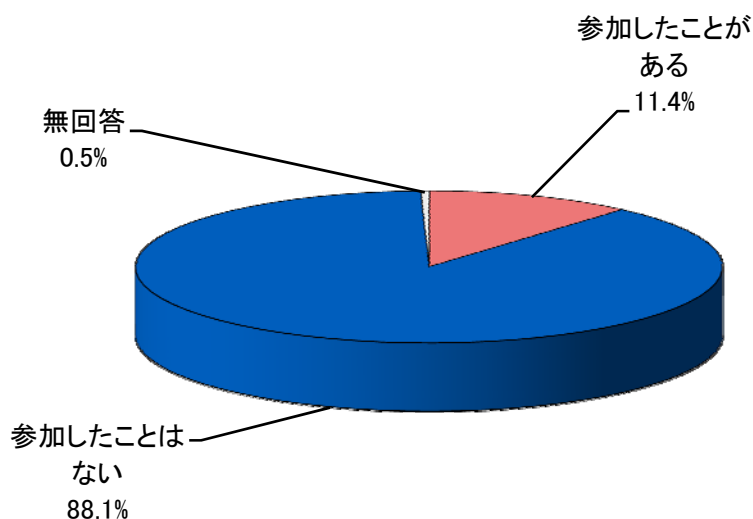
N=908



《問 14 で 1 と答えた方（知っている方）におたずねします。》

問15 あなたは、それらのイベントに参加したことがありますか。（○は1つだけ）

N=210



《すべての方におたずねします。》

名古屋国際センターでは、今年度次のようなイベントを開催します。

❖国際カレッジ

身近なことから地域や世界が抱える問題や世界とのつながりに対する理解を深める参加体験型のセミナー。大人編と子ども編（7月）を実施します。

❖世界へえ?ほう!講座（7・8・12・2月）／世界へえ?ほう!フェスティバル（10月）

「世界語るマイスター」をはじめ、外国人講師が特定のテーマについて母国の事情を紹介します。

❖ワールド・コラボ・フェスタ（10月26日・27日、会場：オアシス21）

中部地域最大の国際協力・交流イベント。地域の国際協力・国際交流団体が日ごろの活動の成果をステージや個別ブースで紹介します。

❖外国人芸術作品展（12月）

プロ、アマ問わず、中部地域に在住する外国人による芸術作品展。セントラル・ジャパン・インターナショナル・ソサエティ（CJIS）との共催。

❖留学生のタベ（12月）

歌・踊り・文化紹介のパフォーマンス、各国の料理、留学生との交流が楽しめるイベント。愛知留学生会との共催。

❖国際理解教育セミナー（1月）

身近なことから自分と世界のつながりを体感する参加体験型学習イベント。

❖地域の国際化セミナー（2月）

国籍に関係なく共に暮らす地域づくりに向けた方策を探るセミナー。外国人住民が日本社会の一員として生活していく上で必要な支援やこれからの地域社会のあるべき姿について参加者と共に考えます。

❖多文化共生を担う人材の育成（通年）

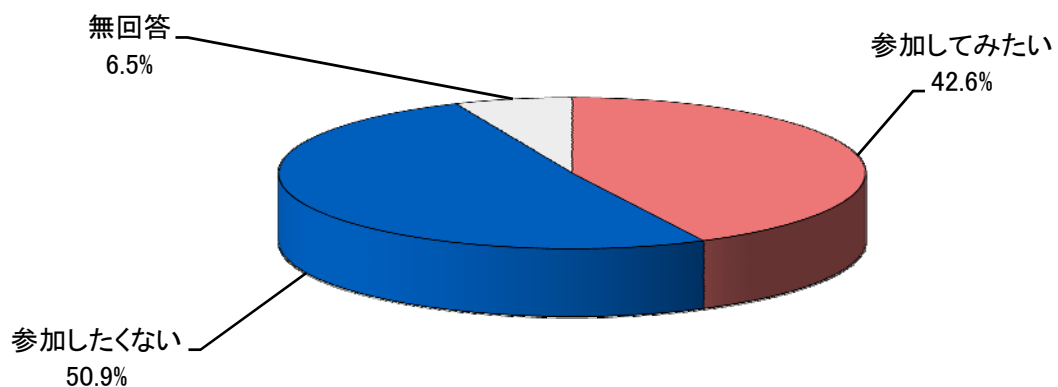
「外国人児童・生徒サポーター養成研修」「日本語ボランティアシンポジウム」「ボランティア研修」等を実施します。

❖外国人防災啓発事業

外国人市民に対し防災や災害についての基本的な知識を提供するため、地域単位で防災啓発イベントや講座などを実施します。

問16 あなたは、前述のような、名古屋国際センターが行うイベントに参加してみたいですか。（○は1つだけ）

N=908



問17 その他、多文化共生に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

N=128

- ・外国人への情報提供は、母国語では対応しきれないので、簡易な日本語（文法、振り仮名をふるなど）で対応したり、日本人が「簡易な日本語」（外国人がわかりやすいようゆっくりしゃべってあげるなど）について知識を得るのも1つの方法だと思います。
- ・外国人への同調ばかりに力を入れすぎないように、外国人に対しても郷にいれば郷に従えの指導をお願いしたい。
- ・もし自分が外国で暮らすとしたら、きっと不安が一番大きいと思います。言葉が通じないこと、宗教や習慣を教わる場所があるのだろうか。どこに行けば相談できるのか。日本で暮らす外国人の方に話を聞いて参考にするのが一番よいと思います。
- ・親子で共に参加し、遊びの中などからお互いの国、生活について学べるセミナーがもっとあればいいと思う。場所も国際センターだけでなく、地域ごとに区役所や小学校を借り、身近な人たちとの交流をまずは増やした方がいいと思う。
- ・日本の文化、習慣を知るのは、日本にいるのだから必要だと思うし、それが日本に来た人の当然の義務であり礼儀だと思う。フレンドリーに日本にいらっしゃった方には失礼のないようにむかえたい。しかし税金を使ってまで交流したり支援する必要はない。「減税」しているのだから。どちらかという日本人が世界へ留学したりするようなことを支援したらいいと思う。市民一人一人が積極的になればいいのと思うが、私のように社会との接点が少ない人は、「多文化共生」とか遠い感じの出来事です。市役所の方々の提案に水を差してすみません。

ほか